

## 令和4年度 第1回湯河原町総合教育会議 会議録

日 時 令和4年7月25日（月）13時30分～14時32分  
場 所 湯河原町防災コミュニティセンター2階 205会議室  
出席者

（委員） 富田町長、菅沼教育長、貴田委員、西山委員、山田委員、  
深澤委員

※山田委員は、オンラインによる出席

（教育委員会） 富士川教育グループ参事兼学校教育課長、露木学校教育課副課長  
兼指導主事、石井学校教育課指導主事、村松社会教育課長、川瀬  
図書館長、飛田美術館長

（事務局） 高橋副町長、内藤政策グループ参事、目黒地域政策課長

傍聴者 6名

### 1 開 会

### 2 町長あいさつ

皆さんこんにちは。今年度第1回の湯河原町総合教育会議ということで、大変お暑い中、山田委員も含めましてご出席くださいます。ありがとうございます。また、よろしくお願いたします。

コロナの感染者数が多くなっていることは気になるところでありますが、一方で、国の方でも行動制限をかけていかないということで、前回の感染者数と医療機関のひっ迫のニュアンスが違うのかなと感じています。その中で、今後やっさ祭りを開催していく方向で調整しており、実行委員会が中心となって動いています。三原市のお子さんたちもお招きするという点については、現状影響なく調整しているところでもあります。

しかし、こういった状況下ということもあり、イベントの開催については慎重論もあるかと思いますが、自主性をもって一人一人が意識をシフトしていき、変わっていければと考えています。いずれにいたしましても、感染はしてほしくないところがございます。また、大きな自治体では濃厚接触者の概念を変えていこうという判断もございます。今後はそういったことも注視していかなければと考えています。

本日の案件については、湯河原町の将来に向かって、児童生徒数の現実を受けとめ、どのように考えていくかということと、また、中学校給食の導入について、色々な状況の変化がある中で暫定的にどのように対応するか、非常に重

要な内容となっていますが、ご忌憚のない意見をいただきまして、会を進めたいと考えますので、皆さまどうぞよろしくお願いいたします。

### 3 教育長あいさつ

改めまして、皆さんこんにちは。町長におかれましては、他の公務でお忙しい中、こういった会を開いていただき、ありがとうございます。教育委員の皆様におかれましては、午前中の定例会に引き続き一日体制となりますが、よろしくお願いいたします。

最近の学校教育の状況でございますが、やはり新型コロナウイルス感染症対策に尽きるところでございます。令和4年度に入り、3年度目でございます。学校及び教育委員会では、なんとか以前の教育活動に近づけたいという想いです。そのような中、この春先では小中学校の修学旅行、中学校の体育祭、宿泊学習、PTA 活動などが少しずつ実施することができました。その後、7月の中旬から感染者数の爆発的な増加により、残念ながら夏季休業に入る前日に、二つの学校で学級閉鎖をしなくてはなりませんでした。小学校6年生においては高学年の3年間を、中学校3年生については、中学校生活丸々3年間を感染症対策を講じた学校生活となっております。ほかの児童生徒もそうですが、何とか楽しい思い出を作って卒業させたいと考えております。

次に社会教育ですが、令和3年度は海のプランクトン、陶芸教室など少人数の事業しか実施することができませんでした。令和4年度に入り、できる限りこれまで行ってきた事業を再開したいというところで努力しています。今年度に入りまして、感染症対策を講じながらグランドゴルフ、バレーボール大会、ツバメの観察、海のプランクトン、砂の芸術など実施してまいりました。町民レクリエーション、町民大学の通常開催などにおきましては、できないところではありますが、三原市との親善交流、陶芸教室、秋の文化祭、年が明けての成人のつどいなど実施していく予定でございます。生涯学習、生涯スポーツが少しずつでも再開していきますよう努めてまいりたいと思います。本日の案件ですが、「今後の町立幼稚園及び小・中学校のあり方」の協議、そして中学校給食施設整備の報告をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

### 4 案 件

(1) 今後の町立幼稚園及び小・中学校のあり方について…資料No. 1

○資料No. 1 を説明（学校教育課）

○質疑

（西山委員）

…改めて数字（児童生徒数）で出された5年後、10年後の湯河原町の現状と併せて、学校規模の適正化や適正配置については、受け止めるだけではないものと考えます。私自身が教育現場にいたこともあり、一番大事なことは、子どもたちの学習の場を確保する、それから、学習の内容をしっかりしたものにしてあげること、この二つは欠かすことのできないものと考えます。子どもたちも様々な価値観を持っていますので、個性を尊重するといった活動が私は大好きです。それを考えると規模をあまり気にしなくてもいいのかなと感じています。ただ、子どもたちが成長していくためには、やはりコミュニケーション能力といったものも重要視されると考えます。この能力は自分一人だけでは育たないです。一番大事なものは、自分と同年代の子どもたちを中心にして、そこから様々な活動を通してコミュニケーション能力を育てていくことです。そういったことが保証されるためにはある程度の人数が必要であるのかなと、つまり私自身この部分でどちらかに結論を出さないといけないところですけど、矛盾というか相反する意見を持っています。ただ、言えることは、10年後の子どもたちがこの現場でどのような活動をしていくのか。子どもらしい笑顔、活気のある叫び声、そんな情景を思い浮かべられるような、そんな学校であってほしい願いがあります。これからも様々な会議で自分の意見を述べていきますが、そういったことを念頭に進めていければと考えています。

（教育長）

…教育委員会事務局といたしましては、資料の2ページにもあるとおり、「湯河原町では将来こういった教育を行っていききたい」姿を示させていただいたものです。一方で、適正配置といった国が示した基準の中では、今の学校数のままでは10年後を迎えるのは厳しいものと考えています。将来目指す教育を実現していくためにはどうしたらよいか、小規模でいくのか、学校をまとめていくのか、今後継続して議論していきたいですし、地域の皆様のご意見も伺いたいと思って、最後にスケジュール案を出させていただきました。現時点でのご意見がございましたら、承りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

（貴田委員）

…10年後の教育環境と適正配置の両方を考えますと、相反する事柄も多く、私自身もどうしていくべきかが正しいのか、結論を出すことができないでおります。今後皆様のご意見を伺いながら方向性を決めていきたいと考えています。例えば子どもに最適な教育環境を与えていく一方で、学校は地域コミュニティのシンボルであるという側面もあります。地域の特色に

即した教育を与えていくのも子どもにとって良いことなのですが、地域にとっては、学校数が多ければ多い方が良いと考えられます。本当に悩ましいところであると考えられますので、皆様のご意見を参考にさせていただき、自分なりにまとめていきたいです。

(山田委員)

…改めて、幸せな子ども時代をこの湯河原町で送れる学校とはどんな学校であるのかを、教育委員会の中で何度も一緒に話し合いをさせていただきました。学校単体で考えてしまうと、子どもたちの一日の暮らしの中が切断されてしまうような感覚があります。子どもが学校に行くまでの道中で会う大人の方々とのお話・コミュニケーションがあって、学校での生活を送り、それでまた帰宅する、そのような子どもたちの一日の暮らしの中で、子どもたちの生活を考えたときに、学校と町との暮らしは切っても切り離せないと考えています。子どもたちもあつという間に大人になり、幸せな子ども時代を過ごした子どもたちが、今度は町の作り手になっていく、学校と地域の方々と一緒に学校を作っていく、そのようなビジョンも持合せてあり方を検討していければなと感じています。

(町長)

…スケジュール案について、令和4年度中に地域の方々に意見交換等を行っていくということですが、教職員、保護者、地域の方々以外にも意見を取り入れた方が良くと思う方がいらっしゃいましたら、教育長を通じて考えていただければと思います。

また、学校の長寿命化という物理的なところと、児童生徒の数が減っていくという部分で、先ほどの説明でありました6ページのところで、学校教育の先生方のアンケート結果では、今の教育の方法を良しとしているので、こういった結果も踏まえて、検討をして欲しいところです。最後7ページのネガティブな数字の部分で、幼稚園で3人のクラスがある、湯小で20人のクラスがある、中学校で31人のクラスがあるという説明があり、それはそれとして、適正配置の仕組みに当てはめて、機械的に数字を出した場合どうなるのか。機械的な部分で資料を作成するのも重要になる場合も出てくると思われます。それにより、地域コミュニティの過去の歴史や継続性がなくなってしまうのではないかなどのソフトな部分も出てくるかもしれません。一般の方々に相談・意見をいただく際にも、機械的な資料を提示することで、議論が出やすくなる印象があります。この資料は、ソフトの部分と機械的な部分と地域コミュニティの部分が一色単となっており、これはこれで大切なのですが、今後は分けていくことも重要であると

考えます。一色単のままであると、今後の方向性が出にくくなってしまいう恐れもあります。

(教育長)

…この資料では、現状の学校数では10年後は厳しいのではないかという大前提のもと作成しておりますが、今後、保護者の皆さん、教職員の皆さん、地域の皆さん、自治会役員の皆さんとの意見交換を行う中で、そうではないよと意見をいただくこともあるかもしれませんが、教育委員会としては、将来の子どものことを考えて、ある程度の方向性を示していくことは必要であると考えています。ただ、学校は地域と共に支えあっていくコミュニティの場でもあり、そういった意見を無視することはできませんが、現状の学校数では10年後は厳しいものと考えていますので、ご理解いただきたいです。

(西山委員)

…先ほど町長から、数字の部分で示した方が良いとのご意見でしたが、私はまだ反対です。ここで数字を出してしまうと、ある特定の学校の数値が極端に低く出されます。もちろん多くの人たちは予想できるものと承知していますが、やはり数字で出されるものには人に大きな影響を与え、そこで数字が出されると、その学校が対象であるのかなと抱かせることになるので、この時期はまだ早いと考えます。今後、町民の方々に説明をしていくということですから、そこでの説明の中で、将来、子どもたちの数が減り、今の学校規模を維持していくことは難しくなることを提示し、皆さんからの意見を伺う際に、各学校区の人数がどうなるかを聞かれたときには、数字を示していければ良いものと考えます。

(町長)

…誤解のないようにですが、機械的に数字を出していくことは押し込むものではありません。タイミングではデリケートな部分となりますが、本日の会議も含めて、内容が外に出ますと、機械的な数字が示されていない今の資料のままだと、まだ先の話のことなのかなと、臨場感がないものと懸念します。保護者の方々、地域の方々に臨場感を与えていかなければならないというのが本音です。西山委員のご指摘のことは、その通りだと思います。ただ、ご理解いただきたいことは、現実、機械的な人数、文部科学省が勧める物理的な通学路の距離を出したうえでの議論も必要で、どちらを優先的に選択していくことになっていくのかなと考えています。タイミングについては、一緒に慎重に考えていきたいところです。意図としては数字の見える化を行い、臨場感を出していきたいです。

この件については、冒頭でも重要な内容と捉えられ、この議論の入り口に皆さんが差ししかかったということで、今後とも皆さんには協力していただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## 5 報 告

### (1) 中学校給食施設整備について…資料No.2

○資料No.2を説明（学校教育課）

○質疑

意見なし

## 6 その他

特になし

## 7 閉 会